

令和8年3月9日

記録者：高齢福祉課 長谷川

- 会議の日時：令和8年3月9日（月） 13時30分から14時40分まで
- 場所：瑞浪市役所 保健センター3階大会議室
- 出席者：熊澤清和 成瀬和子 加藤佐紀 井貝順子 高橋明範 大竹悦子 永治昌代
佐藤好弘 前川新吾 三輪晃治郎 岩島夕夏 片桐千絵 浅川信之 橋本好江
加藤聖二 小木曾昌弘
- 事務局：加藤真由子 長谷川幸 長谷川愛

■ 議事：

1. 開会
2. 健康福祉部長あいさつ
3. 委員長あいさつ
4. 議題
 - 1) 生活支援体制整備事業の概要について
 - 2) 今年度の活動報告
 - 3) 意見交換

テーマ「地域の課題から見える必要な社会資源」
～架空事例「瑞田浪子さん」を通じて～

【各委員より】

- ・民生委員の独居老人への見守りを強化し、認定を受けていない方等を行政へつなげていくことが必要だと思う。
- ・サロンの数が足りていない。気軽に行けるサロン等があれば友人もでき相談しやすい環境になると思う。
- ・区長や組長などからの支援も必要だが、その前に本人が支援を欲しいのかどうか希望を聞くことが必要ではないか。そのためにも声掛けは欠かせないと思う。
- ・民生委員は地域の見守りを月に1回程度以上は行っている。しかし、拒否される方もみえる。そこで区長と連携し、区長に頻繁に訪問に行っていただき、心を開いてもらう。そこから行政につなげていくことが必要だと思う。
- ・福祉お助け隊というボランティア団体がある。庭の草取り30分程度や、スーパーへの買い物であればお手伝いができる。ただそういう所に気軽に頼れるようにする必要がある。
- ・民生委員や区長以外にも、福祉委員にも見守りをさせていただくことで、独居老人の取りこぼしが減ると思う。
- ・通える場所が必要だと思う。気軽に通える場があれば外へ出る機会が増え、友人も作ることが出来る。近況を話したりすることでお互いに見守りをすることができる。
- ・地区の民生委員、区長、近隣住民の声掛けが必要だと思う。声掛けが増えると、介護が必要な状態の方や調整状態の方が表に出てくるため、サービスなどにつなげることができる。
- ・近所付き合いから友達を作ることができれば、近所の人が声を掛け合って市役所に介護申請することも勧めやすいと思う。
- ・区から抜けられる方が多い。抜けてしまうと本当に孤立してしまう。特に若い方で抜ける方が多いが、将来のことや近所付き合いを深める点でも、市役所から加入を推奨することが必要だと思う。任意だからこそ声掛けが必要。
- ・子供がいると大抵カバーできるのではないかと。国全体で急速に核家族化が進んでいることが問題だと思う。
- ・架空事例の対象者に不足しているのは、気軽に相談できる人や頼れる人だと思う。本人の希望を聞いてくれる人がいれば、お助けやサービスもしやすくなり、孤立も防げるのではと思う。

- ・声をかけてくれる人や、挨拶ができる関係の人がどれだけいるかが気になる。住み慣れた地域でも関係作りは難しい。初対面の私たちだと尚更言いづらいことはあると思う。
- ・近所で普段から顔を合わせて話せる方がいるといい。急に困りごとができた際、相手もどう関わればいいのか分からないため、普段から他者、地域との関り方が大切になる。
- ・何かあった時子供に親の近況を伝えられる環境が必要だと思う。子供に迷惑をかけたくない気持ちと、まだまだ親は大丈夫と思っている気持ちで疎遠になっている親子はいる。離れて暮らす子供こそ自分の親の状況を知らせてもらえることはありがたいと思うし、親について考える貴重な機会になると思う。
- ・包括支援センターも困りごとの相談の場をおいているが、気軽に相談ができるかとなるとそうではない。気軽に相談ができる、声をかけてくれる人を作っていく必要がある。
- ・自治会から抜ける人の中には、自治会の役をやらなくてはならないが、できない人、迷惑をかけたくなくて辞めるケースも多くみられる。役や順番を飛ばして回すなど対応している自治会もあるが、抜けると人脈が切れてしまうため、見直す必要があると思う。
- ・瑞長連や長寿会で各地区の見回りを行うが、どの組織も高齢化が進んでいる。一緒に活動することが難しくなることや、年齢を理由に辞めていく方が多い。辞めるとお知らせ等が届かなくなり孤立していく。この悪循環を改善するために市役所等が連携をして、見守りを強化する等高齢者社会を支えていく必要がある。
- ・区長は働き盛りの60歳ぐらいの方が多。日中は会社に行っており、帰ってくるのは夜。近所の状況を分からない方が区長をやってくださっている。困った人がいるということも分からない中で区長に頑張らせるのは大変では。区長や民生委員ではなくて、近所の人や仲間が見守り合える方法を考えると良いと思う。
- ・買い物や草刈りをボランティアでやっても、無償という部分に遠慮し、お金を払うことで気軽に頼みごとができる人もいる。人によってさまざまだが、有償でも無償でも便利屋やボランティアがあることを発信すべきだと思う。無償のボランティアにも限界はあるため、うまく両立させることが必要。
- ・市の関係者の連携を確立し、通いの場等を充実させることが必要。

【委員長まとめ】

孤立する前にどう手を差し伸べていくか、本人、家族、地域でも少しずつ考えていくよう各自考えていただきたい。

5. 閉会